竹嶋

秘
第一號
群1
1111
780
研の内

「リヤンコ」島領土編入并ニ貸下願説明書

目次

一海驢ノ保護方法
一海驢ノ群集ニ及ホス競争捕獲ノ害
一海驢ノ製造ニ對スル競争捕獲ノ害
一本島ノ位置及ビ由来

海驢ノ保護方法

私儀此度「リヤンコ」島領土編入并ニ貸下ノ儀ヲ出願致シタル
迄ニ獨占シテ利益ヲ壟斷センガ爲メニアラズ利益ヲ永
久ニ保全センガ爲メ本島ノ海驢ヲ五ノ如ク保護ノ制度ヲ
及ビ別ニ設備ヲ完全ニシテ捕獲品ヲ十分ニ製造セントス

ニ外ナラザルナリ

一丈ヶ八尺以上ノ牡ニアラザレバ一切捕獲セザルヲ

牝及ビ乳児ヲ捕獲セサルトキハ彼等ハ銃聲艇影ニ対シテ

危害ヲ感ズルヲトガシテ上陸来集ヲ殺セザルベキニ拠リ牡ハ

多少危害ヲ加エラルトモ牝ヲ慈ビ同ジク上陸来集ヲ永續

スヘキナリ

二一期間ニ五百頭以上ヲ捕獲セザルヲ

従来本島ニ来集スル海驢ハ幾千幾万ナルヤ知ルヘカラ

ザル程ナレバ蕃殖ノ害セザル限リニ於テ捕獲シ得ラルヽ餘裕

ハ勿論五百頭ニハ止ラズ然レトモ五百頭以上ヲ一期間ニ捕獲セ

ントスルトキハ発銃ノ度数迅猟ノ回数等ガ期間ノ日数及本島

ノ廣サニ対算シテ類繁ニ過グルニ至ラントス其計算即チ

左ノ如シ

五百頭以上ノ捕獲ニハ六百以上ノ発銃ヲ要ス今期間タル

五六七ノ三ヶ月中毎月ノ平均出猟ヲ二十日トセバ総日数

六十日ト為リ毎一日ノ数銃十発以上ト為ル又タ本島ヲ海

驢ガ互ニ銃聲艇影ニ驚怖セザル廣サニ區分セバ約十五区

ヲ得保護場トシテ其四分ノ一ヲ除キ残十一区ニ対シ毎日

十数以上ノ数銃ヲ為サントセバ毎日毎区ノ数銃一度以上全島

ノ迅猟一周以上ト為ラントス毎日毎区一度ノ数銃全島一

周ノ迅猟ニ類繁ナラザルヤノ恐レアリ況ンヤ其以上ヲヤ

一射手一名猟艇一隻以上ヲ使用セザルヲ

一艇ヲ用フルモ全島ニ一日数周ノ迅猟ヲ為シ得ラルヽ而シテ

競争者ナクバ射手一名ニテ一期間ニ五百頭以上ヲ捕

獲シ得故ニ此以上ヲ使用スヘカラズ

因ニ記ス競争者アルトキハ其数ノ多キニ随ヒ各射手ノ

捕獲数ハ逐減ス本年ノ如キハ平均財手一名ノ捕獲数三百頭前後ノ間ニ在リキ

一保護鳥ヲ設ケ鳥肉ニ於テハ一切捕獲ヲ行ハザル事

其廣サ僅カニ全島四分ノ一以上ヲ要ス而シテ設傷ス人及ビ舟ノ近ヲ不トリモ厳ニ忍ムベシ

保護鳥ニ於テ絶テ危害ニ接觸セザルモノハ無論其未集ヲ永續スヘキヲ以テ他ノ場所ニ於テ多少危害ニ接觸シタルモノモ之ニ誘ハレテ自然其未集ヲ永續スヘキニ由リ結局全島ニ其未集繁殖セザルヲトシ得ベシ

一分晩最中ニハ巡獵ヲ怠スルヲ

所然捕獲ヲ中止セントスルモ奈何セン分晩ヲ終レバ間モナク交尾ヲ始メ牡ハ痛ク衰弱シ腊肪ニ含蓄セル油量ヲバ大ニ減損（五分ノ一ヲ減ス）スルニ由リ已ヲ得ズ中止スルヲ得ズ

同ニ記ス海驢ハ海中ニ於テ交尾スルモノナレバ捕獲ヲ頻繁ニ行フヲ所ヘズ海中ニ在ラシムルトキハ交尾期ヲ迂延シ牡ノ衰弱ヲ速キ且ツ其上陸ヲ疎遠ニスルノ害モ起ル

一害敵タル鰐鱶ノ類ヲ所ヘズ駆逐捕獲スルヲ

本島附近ノ海中ニ群集シ海驢ヲ狙フ特ニ幼児ノ消長激泳ヲ試ムルモノヲ残害スルヲ甚シ故ニ海驢ノ捕獲ヲ頻繁ニ行ヒテ交尾若クハ分晩ノ為ノ体力ノ衰ヘタルモノ及ビ幼児ノ消長シテ体力未ダ十分ナラザルモノヲ駆リテ久シク海中ニ在ラシムルトキハ徒ラニ害敵ノ復ヲ肥スノ害モ起ル

一海豚類ハ総テ刈取ルヘカラザルヲ

海藻類ニ寄棲スル細微ノ動物ハ海驢ノ食餌タル魚類ヲ招致シテ特ニ哺乳中ノ母牝ノ営養及ビ乳ヲ離レタル幼児ノ養育ヲ資クルヲ大ナルベシ

一捕獲以外ニ在テ海驢ヲ驚怖シ及ビ生殖ヲ妨害スルノ行為ヲハ一切厳ニ忌避スルヲト

以上二項ハ一般ニ適用シ得ラルヽ権利ノ保留ヲ要ス何トナレバ元海者ノ寄泊スルモノ若クハ普通ノ漁業者者ガ之レヲ犯スヲ有ヘケレバナリ

一保護奨励実況ニ應シ幾年カヲ限テ終始全島内ヲ輪轉スルヲト

一保護奨励以外ハ捕獲ヲ或ハ毎日毎已ニ行ヒ或ハ幾日カヲ限テ輪番ニ行フ等実況ニ應シテ終始大ニ斟酌カルヲト

要ハ捕獲ヲ行フモ甚シク生殖ヲ妨ゲズ危害ヲ感ゼシメズシテ本島ヲ見限リ去ラシメザルニ在リ而シテ爆聲ヲ発セザル猟具ヲ用ヒ海中ニ於テ捕獲ヲ行フハ此目的ヲ達スルニ尤モ適切ナルモ方今実際中ニ属シ未ダ発表シ得ルニ至ラズ

且ツ本島ノ如キ絶海ノ地ニ在テハ世人ニ公徳ノ絶無ナル今日軍ニ法令規約等ニ依頼シテハ取締ノ途ヲ得ベカラザルガ故ニ寧ロ獨リ一切競争ヲ排スルニアラズンバ此ノ如キ制限ノ保護方法ハ実行スルニ由ナキヲ而シテ此ノ如ク競争ヲ排シ制限ノ保護ヲ加フルノ必要ハ本島海驢猟ノ実況左ノ如クナルニ由ルナリ

一幾何ヲモ捕獲シ得ズシテ徒ラニ海驢ヲ逐散シツヽ将ニ忽チ絶滅セントス

一其捕獲シタルモノモ十分ニ製造スルヲト能ハズシテ副産物ヲ

バ概シテ空シク遺棄セザルヲ得ズ

貫國家社會ニ取リテ極メテ不利益タルハ言ヲ待タザル所ナリ身

苟モ産業界ニ在ルモノハ貫人ノ官公私ヲ論ゼズ此ノ如キ實況ヲ

バ決シテ等閑ニ附シ去ルヘカラザルナリ特ニ私儀ハ世人ニ率先シ

テ危險ヲ冒カシ少ナカラザル資本（勿論私義ニ取リテナリ而シテ貫金額ハ直接間接ニ千五百四前後ニ達ス）ヲ

投シテ爰ニ試驗ヲ遂ケ折角利益保ヲ図ル所ナリ何ノ年所ヲモ経ズ利益ヲモ産出

バ今貫利益保ヲ図ル者ナシ

スルニ及バズシテ忽チ絶滅セントスルニ於テハ自己利害ノ関係ヲ

別ニスルモ遺憾竟ニ忍ブベカラザルナリ況ンヤ為ノミ投資回收ノ機

ヲ失ヒ甚シキ損害ヲ被ラントスルニ於テヲヤ此度私儀ガ貫利

原保全為メニ方法ヲ講ズシテ貫筋ノ特許ヲ仰グニ至

ルモノ豈ニ已ムヲ得ベケンヤ

海驢ノ群集ニ及ボス競爭捕獲ノ害

海驢ハ陸上ニ於テ夕晩唄乳ヲ為スモノナリ而シテ本島ニ在

テハ貫捕獲ハ貫生殖期中陸上ニ於テ行ハルヽナリ貫捕

獲ニハ銃ヲ用ユ故ニ一發ノ下ニ驚然鄙音ヲ傳ヘ貫近傍

一帶ニ上陸セルモノ游泳セルモノヲシテ一齊驚怖遁逃セシムルヲ

免レズ遁テ本島ノ如キ叢薄多ク列岩ニ在リテハ海驢ノ群

集スルヲトハ如何ニ夥シキモ固トヨリ多數ノ捕獲者ヲ容ル、餘裕

ヲ存セズシテ幾分ヲモ捕獲シ得ラレザルナリ多數ニ捕獲ヲ兼ビ行

ハシムルトキハ全島至ル所ニ毎日幾度モ捕獲ガ頻繁ニ繰返

サレザルヲ得ズ貫為ノ海驢ヲシテ危害ニ觸ラシメ頻繁ナ

ラズンバアラズ殆ンド上陸シ得サラシメズンバアラズ上陸得ズンバ海驢ハ分

晩唄乳スルヲ能ハザルナリ捕獲シ得ベカラザルナリ抑本島ノ海

驢ハ本島ノ地素ト極メテ安全ナリシニ由テ生殖ヲ為サンガ為メ

ニ貫季節ニ特ニ来集スルモノナルニ今本島ニ於テ危害ニ接
觸シ人ルヲト此ノ如ク頻繁ニシテ今晩哺乳即生殖ヲ妨害ス
ルコト此ノ如ク甚シクシテ而シテ如何ゾ永ク本島ニ戀々タラシム其
忽チ来集ヲ絶スルニ至ル必然タリ然レドモ本島ハ海驢ノ年来
生殖場トスル所ニシテ危害餘ニ甚シカラズハ容易ニ来集ヲ絶
スルヲトモナクルベケレバ競争ヲ排シテ制限保護ヲ適切ナラシム
バ割合多キ捕獲ヲ遂ゲツヽ海驢ノ来集ヲ永續シテ利
源ヲシテ混々盡クルトキナキヲ得セシメラルベキモ然ラザルトキハ幾何
ヲモ捕獲シ得ズシテ徒ラニ逐散ラシ忽チ絶滅セシムルヲ免レザルベ
キナリ

本島ニ海驢ノ群集スルコトハ寒ニ移リ周囲ノ磯辺ハ高メニ
掩ハレテ地ヲ見ズ附近ノ海中ニハ渦ヲ巻キ廻ヲ林立シ其数幾
千幾万ナルヤ知ルベカラザル程ナリ本年ニ至リテ之レガ捕獲ニ競
争ヲ生シ猟艇ハ初ハ三隻後ハ六隻使用サレタルガ其一斯間
ノ総捕獲頭ハ大約左ニ如シ（盡ク商業者ニ就キ結査シ国庫ニ納メタルモノニアラズ現況ニ於テ見タル大数ヲ掲記シタルモノ
ナレバ国庫ヨリ多クハ相違アルベシ）

一牡八百五十頭 網獲五六頭 他ハ銃殺 塩皮凡ソ六千貫 一枚平均 凡七貫目
一牝九百頭 撲殺 網五六十 他ハ銃殺 塩皮凡千四百四十貫 一枚平均 凡ソ一貫六百目
一乳児千頭 盡ク撲殺 凡ソ二百五十貫 一枚平均 凡ソ二百五十目
計二千七百六十頭 塩皮七千六百九十貫 一枚平均 二百七百八十六目

而シテ海驢ノ群集ハ其季節ニ於テ半ナラズシテ既ニ著シク減却
シ僅カニ半ヲ過ギタル比ヨリハ寂々寥々真ニ数フルニ足ラズ竟ニ成長
セルモノハ容易ニ捕獲シ得ラレザルニ至リ各當業者ハ已ムヲ得ズ競フ
テ乳児ヲモ撲殺シタルナリ競争ノ餘弊トシテ徒ラニ撲殺サレ
空シク遺棄セラルル乳児モ其数実ニ四五百頭ヲ下ラザリキ以テ競
争捕獲ノ害如何ニ甚シキカヲ観ルベシ而シテ明年ハ競争

更ニ激烈ヲ加フルノ形勢アレバ此儘ニ放任セバ本島海驢ノ絶滅ハ遠ソモ明年ヲ超ヘザルベキナリ

本年捕獲額ハ競争捕獲ノ最大額ナルヘシ何トナレバ本島ニ於テ捕獲者ノ数多キヲ加フレバ加フル丈ケ捕獲ハ益々難ク既ニ本年ハ捕獲者ノ数多キニ過ギタルガ為メニ却テ総捕獲額ヲバ抑殺サレタル形跡歴然タレバ此上捕獲者ノ数如何ニ増加スルモ捕獲額ハ更ニ益減ズルノミニシテ増スコトナカルヘケレバナリ然ラバ則チ自由捕獲ノ利益ハ只個々ニ考レシ捕獲シ得ルト云フニ過キス別ニ國家社會ニ取テ何等利スル所ナキノミカ利原ヲ忽チ絶滅スルノ大害ヲ存スルノミナリ而シテ其本年ノ捕獲額ハ私儀ノ制限捕獲数ヨリ多キモ為メニ利原ノ絶滅ヲ速クニ於テハ其多キハ結局利益ヲアラズ寧ロ損害ナリトス

海驢ノ製造ニ對スル競争捕獲ノ害

海驢ノ皮ハ品質芳香ナレドモ其脂肪肉骨等ヨリハ多量ノ良質ナル油肥料等ヲ採取シ得ラル只皮ハ塩ヲ加フルノミニテ品質ヲ損セス遠方ニ輸送販賣シ得ラルレドモ油肥料等副産物ノ採製ニ至テハ煩雑ニシテ多少學理ヲ應用シ設備ヲ完全ニシ極メテ新鮮ナル原料ヨリ直ニ採製スルニアラサレバ十分ノ價値アル良品ヲ多量ニ得ル能ハズ然ルニ競争者ナルトキハ各當業者カ捕獲ノ競争ニ專ラニスル必要アリ煩雑ナル副産物採製ニ顧ミルヲ得難キコト

一事業永續ノ望ナキヲ以テ資本ヲ固定シテ副産物採製ノ設備ヲ完全ニスルコトハ營業經済ノ上ニ於テ考慮ヲ要スルコト

一本島ハ絶海ニ峙立スル蕞爾タル列岩ニシテ平地稀レナルヲ以テ當業者ノ數多キトキハ各自漁舎ノ敷地獵庭捕獲

島根縣隠岐島廳
島根縣歴史館

品ノ引揚蕩需品置場等ニモ窮セントス決シテ製造上完全ナル裝置ノ据付ヲ為シ得ベキ餘裕アルヘカラサルヲ
一原料ヲ新鮮ノ儘内地ニ輸送スルヲトハ固ヨリ絶望ニ屬スト
者ノ為メ設備ヲ完全ニシ製造ヲ十分ニスルヲ能ハズシテ腑肪肉骨等ハ概シテ遺棄セサルヲ得ス仮令ヒ遺棄セザルモ殆ンド價ヲ有セザル粗悪品ノ少量ヲ採取シ得ルニ過ギサルヘシ

本島ノ位置及ビ由来

本島ノ位置ハ東經百三十一度五十五分北緯三十七度十五分ニ在リ我遠洋列島ヨリ西北八十五浬朝鮮鬱陵島ヨリ東南五十五浬ニシテ鬱陵島ニ近キモ我ガ出雲國多古鼻ヨリハ百八浬朝鮮「ルフドチル」岬ヨリハ百

十八浬ニシテ本邦ニ最モ近シ

水路誌ニ按ズルニ「西紀千八百四十九年佛國船「リヤンコールド」初メテ之ヲ發見シ称呼ヲ其船名ニ取ル其後千八百五十九年露國「プガット」形艦「パラス」ハ此列岩ヲ「ソナライ」及ビ「リヴァア」列岩ト名ケ千八百五十五年英艦「ホルチット」ハ此列岩ヲ探検シテ「ホルチット」列岩ト名ツケリ該艦長「フオレイス」ノ言ニ拠ルニ此列岩ハ北緯三十七度十四分東經百三十一度五十五分ノ處ニ位スル二坐ノ不毛岩礁ニシテ鳥糞常ニ嶼上ニ堆積シ嶼色為メニ白シ而シテ北西ヨリ西南ヨリ東ノ長サ約一浬ニ嶼ノ間距離二鏈半ニシテ見タル所一焦脈アリテ之ヲ連結スレハ西嶼ハ海面上高サ約四百十呎ニシテ其形棒糖ノ如シ東嶼ハ較低クシテ平頂ナリ此列岩附近ハ水頗ル深キガ如シト雖ドモ其位置ハ実ニ函館ニ向フ日本海ヲ航行スル船舶ノ

直水道ニ當レルヲ以テ頗ル危険ナリトス」トアリ米國水路部告示第四三号（明治三十五年一月）ニ拠レバ誤國軍艦「ニューヨーク」ハ此列岩ノ位置ヲ測定シテ北緯三十七度九分三〇秒東経百三十一度五十五分トセリ

水路誌ノ記スル所ニ拠レバ本島ハ今ヨリ五十余年前佛人ノ發見スル所ナリト雖トモ本邦ハ毎ニ知ラザルハ余程以前ニ在ルガ如シ彼等古先ノ間ニハ本島ハ怪物住シ危聲ヲ發スル近クベカラズト專ラ説シ居ルモノアリ蓋シ海驢ノ叫聲ヲ怪シタルナラン喧々実ニ里余外ノ沖合ニ聞エ而シテ此傳説ハ頗ル古キガ如シ何トナレバ近来欝陵島ニ往復スル船舶ノ間ニ起リタリトセバ餘リニ蒙味ナレバナリ又ヲ慶長年間ニ伯州米子ノ集數度竹島ニ往復セル事蹟ヲ伯耆民談記ニ載セアリ大ナル竹ヲ產シテ風呂桶ヲ製スルニ足ルヲ載セアリ俗説ニ欝陵島ハ松島ニ

シテ真ノ竹島ナルモノハ別ニアリ大ナル竹ヲ產スト云フモノアリ然レドモ米子ノ集ガ往復シタル竹島ハ確ニ欝陵島ナリ取謂松竹両島ハ邦人命名スル所ニシテ欝陵島ト本島トヲ并称シタルニハアラザルカ而シテ隠岐列島ヲ経テ欝陵島ニ數度往復セルモノハ本島ヲ見ザル筈ナレ要スルニ邦人ハ風ニ本島ヲ發見シ居ルモ惜ムラクハ記録ノ堂ヘキモノナキノミナラント信ス

從来本邦ノ漁夫等欝陵島往復ノ途次往々本島ニ寄泊シ鮑ヲ採取セルコトアルノミナリシガ昨ミ十六年五月余ハ爰ニ海驢獵ヲ企テ人夫ヲ移シ漁舎ヲ構エタリ而シテ私儀ハ人夫等ガ上陸セシ際全島ノ何等建設物ヲモ發見セザリキ即チ本島ニ初メテ建設物ヲ構エ國旗ヲ樹テタルモノハ實ニ現ニ出征第四軍ニ從軍セル豫備軍曹小原岩藏ガ私儀ノ為メニ帥ヒタル人夫ノ一行ナリトス

北
東
西
南
凡例
局部分界
保護場分界
礁濱
潟水
漁夫
海鹽上陸場処